第 12－7 号

耕人

『耕人塾』
塾長　横江　信一
令和 5 年 11 月 18 日（土）

利他の心

『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」ととらえ、徳を養い、心体を鍛え、知を高め、「利他の心」で実践していくことが「地域社会への貢献」に繋がると考え、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1（プラスワン）」の実践活動に取り組んできました。

今回は、「地域社会への貢献」に繋がるゴミ拾いなどの取り組みに対する「利他の心」について考えていきたいと思います。

「利他の心」とは何でしょうか。一般的には、自分のことよりも他人の幸福を願うこと。自分を犠牲にして、他人のために尽くすことであり、このような気持ちで周囲に接する心のありようを「利他の心」と言います。しかし、私たちの心には「自分（だけ）がよければいい」と考える「利己の心」もあるのではないでしょうか。

グローバル社会の視点から見つめてみるとどうでしょうか。平和を願い、幸せを願っていながら、戦禍で尊い命を奪われたりしています。そして、人種問題、人権問題、貧困など世界の中に依然として続いており、「利他の心」を培うことは大切です。

京セラを創設し、KDDI、JAL という一流の企業において経営手腕を発揮した稲盛和夫さんの著書の中には、「利他の思いから行動すれば、自らのもとに返ってくる。そして、行動の規範となるのは損得ではなく“人間としての正しさ”である」と記されています。

それでは、「“人間としての正しさ”とは何か」と問われて、どのように考えますか。どの時代でも多様な価値観や考え方が存在するため、何が人間として正しいか判然としないことが世の中にはたくさんあります。人としての正しさとは、自分の中の積み重ねにあり、その積み重ねにより磨かれた心が問われているのだと思います。だからこそ、善意なる心を磨き、その善意の心に従い行動していくことが大事なのだと思います。感謝の心、謙虚な心、他人を思いやる心、どれも幼少の頃から大切だといわれてきましたが、改めてその大切さを見つめていかなければならないと考えます。

「利他の心」という四文字を言葉にするのは簡単ですが、塾生の皆さんが実際に行ったことを振り返り、「マイプロジェクト」の実践発表を通して、テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」に基づく課題解決に向けて取り組んでほしいと願っています。

「栗山ノート」を読んで　栗山英樹/著　光文社

ＷＢＣ優勝後に改めて指導力が注目された栗山監督。『栗山ノート』は指導者としての魅力や、その「思考力」の原点が分かる書籍として読みました。

表紙の裏側に「常識を疑えば、新しいものが生まれる」と書かれていました。大谷選手の打者と投手の二刀流は、まさに野球の常識を変えました。

常識とは何か。ある国語辞典には「常識＝その社会が共通に持つ、知識または考え方」と記されています。続けて、このように書かれていました。「常識だけに頼るとき、私たちは固定観念、偏見に陥る。常識を“ものさし”として裁断しようとするとき、私たちは真実を見誤る。そうした誤りを避けるため、自分がどういう尺度でものを見ているのか、それを冷静に吟味するのが良識あるいは理性の役目である。」

読み直してみると、新たな気づきがありました。